

会 議 録

会議名	令和7年度 第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和7年7月18日(金) 10:00~11:30
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	(出席委員) 山中雅大(会長)、高濱和則(副会長)、村井花子、草薙めぐみ、角野幸治、 馬場久美子、葛上侑加、森本まり子、曾根浩二、増田美樹、長尾圭祐 (欠席委員) 藤田雅人、武林正樹、光岡浩昌、末永涼奈 (敬称略)
議 題	・令和6年度事業実施状況及び令和7年度事業実施予定について
傍聴者	0人
事務局	(中心市) 丸亀市市長公室長 栗山佳子 丸亀市政策課 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子、主査 佐野大介 (関係市町) 善通寺市政策課 課長 佐藤幸治、主事 高木 博昭 多度津町政策観光課 係長 合田顕宏 まんのう町企画政策課 課長 鈴木正俊
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今から令和7年度第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。 ここからの進行につきましては、会長から願いたします。
山中会長	それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。 なお、本日委員総数15名中、11名の出席をいただいておりますので、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、会議は有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。 本日の議事は、 (1)「令和6年度事業実施状況及び令和7年度事業実施予定について」です。事務局より説明をお願いします。
藤井	(令和6年度事業実施状況及び令和7年度事業実施予定について説明)
草薙委員	女性の活躍推進や就労率の向上など、夫婦共働きが当たり前の現在の状況において、病児・病後児保育事業のうち、病児保育が可能な施設が圏域で丸亀市に1ヶ所しかない現状が、問題と思います。病児保育は、感染症の場合、他の病気の子はもう預かることを受け入れてもらえないので、そういった意味でも、病児保育の施設を、せ

	<p>めてもう1ヶ所とか2ヶ所、増設していただけたらと思います。</p> <p>小児科医の後継者不足など、問題を抱えているとは思いますが、就労率が上がっている中で、圏域内に病児保育施設が1ヶ所しかなく、働いている子育て世帯の皆さんが困っている状況もありますので、改善していただきたいです。</p>
藤井	<p>圏域の病児・病後児保育施設の利用率は高いと見受けられますが、圏域内の施設の利用については、その施設のある住民と保育料を同額とする制度の活用が少ないので、利用後の償還手続きについて、周知や利用促進を図っていきたいと考えております。また、施設の増設については、医療機関等と連携した取組になると思いますので、ご意見を担当課に伝えさせていただきます。</p>
山中会長	<p>圏域内の利用料を償還手続きではなく、窓口で減額された実費を支払えるように改善していただきたいです。</p>
藤井	<p>現状は、利用者が施設の窓口で支払いし、利用者の申請により各自治体の負担で利用者へ償還払いをするというルールになっているので、利用者の利便性が上がるような手続きの検討について担当課へお伝えします。</p>
角野委員	<p>ふるさと融資について、内容や事例を教えてください。</p>
佐野	<p>ふるさと融資は、公益性があり、地域振興に資する民間事業者の設備投資などに無利子で融資をし、事業者を支援する制度です。丸亀市での実績は、令和4年度の特別養護老人ホームの移転に係る費用について融資を行っています。</p>
角野委員	<p>ふるさと納税の成果指標は、新たな共通返礼品の開発件数で、令和6年度に追加はなかったということでしょうか。</p>
藤井	<p>指標にある3品というのは、地酒の飲み比べ、スイーツの食べ比べ、うどんの名店食べ比べといったような、圏域内の銘品を詰めた返礼品です。新たに圏域で開発した返礼品の設定には至っていませんが、各自治体において、ふるさと納税返礼品のPRをしっかりと行い寄付者が増えるよう努めております。</p>
角野委員	<p>詰め合わせの返礼品を、それぞれの自治体のサイトに掲載し、ふるさと納税を募集するという事で理解しました。</p>
馬場委員	<p>「⑧地産地消・地産外商の推進」で、以前丸亀市民ひろばに物産館を建設予定と伺いました。その進捗はいかがでしょうか。</p>
真鍋課長	<p>新市民会館の完成や生涯学習センターの解体、その跡に駐車場として整備するとともに公園のリニューアル、拠点施設となる建物の建設を計画しており、その拠点施設</p>

	<p>で土産物や物産を販売するイメージです。</p>
馬場委員	<p>栗林公園の物産館で地域のものを取り扱っているように、拠点施設で、例えば飯山まで行かなくても街中で桃が買えるなど、圏域内の物産を取り扱えば、観光客だけでなく地元の人でも買うことができ、地産地消にもつながると思います。</p>
真鍋課長	<p>観光客向けだけでなく市民の方や近隣自治体の方にも来ていただけるような広域で機能できるよう検討していきたいと思います。</p>
葛上委員	<p>丸亀市広島町は、NPO 法人が運営するデイサービスやデマンドタクシーがありますが、本島町にはなく、便数の少ないコミュニティバスでは港までもなかなか行けないという現状から、島によって利便性に差があるのは改善してほしいです。</p>
真鍋課長	<p>それぞれの島においてこれまでの成り立ちや、島民の意見を反映した結果が今の状況になっていると思います。広島では、バス運行業務の受託者が、事業の採算性などから撤退したところに、住民が NPO 法人を立ち上げ、受け皿となっている状況だと思っています。一方で、本島はまだ深刻な状況に至っていないという認識ですが、サービスの差があることへのご意見については、何らかの対策を練る必要もあると思いますので担当課にお伝えします。</p>
森本委員	<p>「②公共交通の市町間連携」で、市町間の地域公共交通の連携強化について 2 市 3 町でどのような意見交換が実施されていますか。</p>
真鍋課長	<p>この圏域は生活圏が密接であり、行政区域を越えて丸亀市の大きい医療機関まで行けるようなコミュニティバスのルートなど、市町間をまたぐ公共交通網のイメージについての話し合いになります。バス運行なので自家用車で目的地へ行くより移動時間がかかり便数が限られてしまうという課題はあります。現状では、市町間の停留所を近づけて乗り継ぎができる場所がある段階までは進んでいると思いますが、おそらく、住民の方の実感としては全然便利になってないということだと思いますので、民間路線も含め、利便性を上げるということも課題だと思います。今後高齢者の方や免許返納する方が増えれば、移動手段を公共交通が役割を担わなければならないと考えてはおりますが、なかなか進展がみられないというのが実情です。</p>
角野委員	<p>善通寺市の場合は、市民バスが廃止になり現在は予約型タクシーの「チョイソコ」が導入されています。よって、この取組についても見直しが必要で、例えば、圏域の丸亀駅、善通寺駅、多度津駅、琴平駅間の JR 接続が良くなれば、駅を拠点とした二次交通をその自治体ごとに負うことで利便性は上がると思います。現在の状況に応じた取組を協議していく必要があると思います。</p>
増田委員	<p>コミュニティバスが、運転手不足により減便している状況において、バスの自動運</p>

<p>真鍋課長</p>	<p>転の導入についての検討の状況を教えていただきたいです。</p> <p>丸亀市では、令和7年度に社会実験的に、国の交付金を財源として自動運転バスの導入を検討していましたが、採択にならず今年度は断念したのが現状です。コミュニティバスの減便は運転士不足によるもので、人口減少の中においては、今後も回復の見込みはないと思いますので、この状況下において公共交通を維持していくために、コミュニティバスの自動運転に今後チャレンジしようと考えているところです。ただ、自動運転にはレベルがあり、レベル2は運転士の同乗を必須とすること、レベル4まで上げていけば運転士は同乗しなくて良いが、道路の車線の事情や交通量などの条件が必要となってきます。よって、どのレベルでの実現が可能かという社会実験を進めながら、丸亀市としては検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>この地域公共交通の取組は自治体が運行するバスを中心としたものですが、今後JRとの接続による利便性や、その他多様な交通手段を駆使するなど、少しでも便利で移動しやすい取組を検討すべきだと思いますので、根本的な見直しも含め今後ビジョンにもどう反映させるか検討します。</p>
<p>葛上委員</p>	<p>コミュニティバスも、増便よりは、学生が利用しやすいよう学校と連携するなど、利便性が上がるようにしていただきたいです。利用可能な便がないと乗らない、乗れない、となりより利用者が減ってしまうと思います。</p>
<p>真鍋課長</p>	<p>コミュニティバスのダイヤの見直しは、ニーズや環境に合わせて行っております。例えば、JRの時間に合わせようとするれば、各学校での学生の終業時間とずれるような状況が起きることもあると思いますので、毎年のように乗降客の調査などをしながらダイヤを調整しているような現状です。ただ、利用したい学生のニーズと合っていないというご意見については、担当課にお伝えします。</p>
<p>山中会長</p>	<p>この取組については、バスに限定されているのでしょうか。</p>
<p>真鍋課長</p>	<p>基本的には行政が関与している部分になりますので、バスという公共交通機関の取組になっています。ただ、先ほどからあるように、民間事業者を含めた他の交通機関も巻き込んだ取組の必要性など、検討の余地があると思います。</p>
<p>山中会長</p>	<p>現実的にはなかなか着手には至らないと思いますが、他の取組でゼロカーボンや6次化産業などの取組を進めるにあたって、基本的に市民の方も移動手段がなければ事業の展開ができないと思います。高齢者の運転問題などもあり、インフラの機能を発揮する上では、公共交通は大きな基盤としてとても重要だと思います。その際に、バスの運転士の担い手不足に起因する減便が起きてくることを想定するなら、飛躍的な話ですが、現在、路面電車は、環境負荷の少ない都市交通として世界的に再注目されています。そうすると、バスに限定しなくても路面電車の完全電気化や、無人での走行も可能になり、路面電車のためにわざわざ人がやってくるなど、おそらく公共交</p>

	<p>通以外の部分も含めて複合的に連携していくと思います。もちろん多額の費用と時間はとてもかかるとは思います、このような広域で同じ課題に直面しているのであれば、新たな手法に手を伸ばしてみることもいいと思います。</p>
真鍋課長	<p>全国的な事例では、富山市のように路面電車を中心にしたまちづくりが上手くいっているところもあります。費用等を考慮すると実現には至らない状況はあると思いますが、全体をいろんな観点から見て考えていくという上では、そういった視点も大切ですので、担当課にもご意見として伝えさせていただきます。</p>
増田委員	<p>丸亀市で試験的に実施しているデマンド交通はどのような状況でしょうか。</p>
真鍋課長	<p>丸亀市の郡家町で1年半程度の期間で、デマンド交通の社会実験を実施しました。事業の採算に見合った、乗降客数が得られなかったという結果でしたが、公共交通全体を考えたときに、デマンド交通の可能性は常に模索しないといけないと考えています。次は、条件を変えて綾歌町の一部地域でデマンド交通の社会実験をする予定になっています。</p> <p>デマンド交通の実施方法も玄関から玄関へ行く方法や、郡家地区で採用したポイントからポイントへ行く方法などありますが、ポイントまで出るのは高齢者の方にとって使い勝手が悪いというご意見もあるなど、市民の方のニーズにマッチしたようなデマンド交通の方法を、形を変えながら引き続き社会実験を行い、どこかのエリアだけでも取り入れられないかというのを検討しています。</p>
馬場委員	<p>郡家地区は、高齢者の運転免許証返納者が相当数いるということで、デマンドの実証実験の対象地域に選ばれた経緯がありましたが、結果として利用者は予想を下回ったということでした。時期尚早というアンケートの回答もありましたが、今後、運転免許証保持者は減少し、運転しない方は多くなるので、将来的には公共交通の対策は必要と思います。</p>
高濱委員	<p>各自自治体での課題がある中で、いろんなご意見をいただきながらも、圏域内での取組について議論を深めていくという点では、共通の課題をトータルで考えていかなければなりません。</p>
角野委員	<p>「⑦中小企業の活性化」について、中小企業としては、相変わらず人手不足、人材不足でいろいろ取り組んでいます、なかなか結果に繋がらないという現状があります。善通寺商工会議所では、昨年、補助金の活用やいろんな手段を使って高松市内で求人活動を行いました、相当の魅力がないと高松市に住む方が善通寺市で就職するというのは現実的には難しく、求人活動をする場所も関連してくると思いました。よって、中小企業の活性化に繋げるためには、この圏域内で企業を知っていただくことと、香川県内もしくは、徳島、愛媛も含めた近隣県をターゲットにした求人活動、香川県外や東京、大阪からのUターン就職への取組の3つのパターンで、進めていか</p>

<p>山中会長</p>	<p>ないといけないと思いました。</p> <p>移住やUターンなどいろんな施策を絡めて、いかにこのエリアに帰ってきていただくか、いい環境や住むところ、働くところもあるというトータルパッケージで、人を動かすような取り組みができないかというのを工夫しながら考えていただきたいと思います。そして、圏域内に四国学院大学がありますが、県内にある他の私立大学と学部や学科が違うとはいえ、高松駅前など立地が良いところへ生徒は流れてしまうと思います。よって、このエリアの問題として、今後もし大学がなくなるようなことがあれば、人の流れや企業の求人、若い人の定住も変わってくると思うので非常に危機感を持っております。そのあたりも考慮して、何か政策を打っていただければと思っています。</p>
<p>藤井</p>	<p>インターンシップ事業については、関東、関西圏の大学生を対象として、圏域内の企業へのインターンシップへ参加し、その交通費を一部補助するような取組です。令和5年度に参加した生徒21人のうち、その後のアンケートや追跡調査によると、圏域内で就職したのは1名という結果となっています。県や大学等でも同様の事業が実施されていることや、参加者と企業側の目的などが一致していない現状もあるため、令和7年度からは事業自体を廃止し、令和6年度実施分の追跡調査の費用を計上しております。その他には、地元企業PR事業として丸亀市内の中学2年生を対象として実施しており、同様の事業を多度津町でも開始したところです。</p>
<p>高濱委員</p>	<p>インターンシップ事業のメリットとしては、参加者がどういう仕事をするかが詳しくわかる場所ですので、しっかりと企業側と参加者とのニーズを把握し、マッチングすることが重要だと思います。さらに、AIの活用やデジタル化による仕事のやり方は変化していると思いますが、やはり労働集約的な仕事としては人手が必要で、新卒のみならず、年間通じて採用は行っているような状況です。UJIターンの取組など商工会議所ではいろいろ実践しましたが、現在は、幼少期から企業を知ってもらうことと、その保護者も企業を知る機会を設ける取組として、10月の第3月曜日を含むキッズウィークを設け、市内の事業所が各種イベントを開催し、また保護者も働き方改革の一環として有給休暇の取得を推奨しております。</p>
<p>山中会長</p>	<p>学生から就職活動などの話を聞くと、今は、学生が企業を選ぶような時代ですので、企業側のほうが、採用者の募集などとても苦戦していると感じます。学生の就活には、自己分析から始まり、どういう業界があるか、自分に合った業界や職種の選定、そのあとにインターンシップをするというセオリーのような流れがあると思いますが、手順を全く踏まず就職した結果、離職に至るケースが多くあると思っています。小中学生、高校生、大学生を対象に自分自身が好きなもの、得意なもの、興味があるものを見つけ出せるよう、企業の紹介をする場の提供を地道に続けていければ、就職の際に以前から知っている地元の企業を志望するような流れになっていくと思います。そういう産官学の連携を通じて、地元就職に繋がらないかなと思いました。</p>

村田委員	<p>就職活動時の面接の緊張感を苦手とする生徒も多く、一社から内定をもらうとあとは受験せず、結局離職してしまうケースも見受けられるので、新卒採用時に自分に合った就職先の見極めが必要と感じます。</p>
長尾委員	<p>「⑥大学等との交流・合同研究等の推進」について、令和6年度を取組で四国学院大学との連携が善通寺市との1件だけでした。他の自治体でも連携していただけたら「⑦中小企業の活性化」にもつながることがあるのではないかと思います。現在、善通寺市へのインターンシップとして、特産品などの宣伝を兼ねて東京で販売し、関係人口に繋げる取組を善通寺市と四国学院大学、香川大学と企業が連携して実施していますが、そういう機会を捉えた中小企業特有の強みを生かせる事業の実施など、産官学を巻き込んでいけたら活性化に繋がると思いました。</p>
山中会長	<p>「⑥大学等との交流・合同研究等の推進」は、圏域での取組として間口を広げているので、もう少しアピールしてくといいと思います。</p>
藤井	<p>現在2市3町での取組はないですが、各自治体の各部署で個々には官学連携した事業の実施は見受けられます。その他に、イベント時のボランティアを依頼することが多くありますが、やはり合同で研究をするようなもののほうがより交流は深まると思っています。しかし、どの枠組みで実施することが可能か、どのように発信していくかなど全庁的な仕組みの確立が必要だと思えます。</p>
真鍋課長	<p>四国学院大学で実施している取組は、継続性もありそうなので、段階的にこの圏域での取組に広げていくこともできそうな印象を受けました。例えば丸亀市で実施している大学連携の取組はスポット的なものが多いような印象があるので、長尾委員が紹介してくれた取組だとまだまだ広がりがありそうなので、丸亀市でも担当にお伝えし、圏域での取組としてさらに発展できればいいなと思います。</p>
山中会長	<p>私の感想としては、先ほど紹介した令和7年度の学生の取組は、県の事業としてある程度テンプレートに沿って実施しましたが、令和6年度に実施した取組は、自由度がとても高く、学生自身がSDGsやゼロカーボンの観点も含めて考え、善通寺市内にあるものでガイドツアーを組むよう、関係先と調整し実行に移す事業で、学生にとっても成長の機会ともなり、地域の企業とも連携できたことなど、双方にとって今後の可能性が広がるものと捉えています。同様に、この圏域でのレベルで連携していくようなことができれば、学生たちの自身の横の繋がりにもなり、地域の中での関係性で就職にも繋がるのではないかと考えます。そういった事業をぜひ、四国学院大学や香川大学だけでなく、いろんなところに、是非ともオファーしていただけたらと思います。</p> <p>他にご意見等もないようでしたら、この議題についてはここまでといたします。その他として事務局より報告事項はありますか。</p>

藤井	<p>第3次瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョンについては、令和8年度末までの計画となっているため、令和8年度中には、次期計画に向けた見直しや改訂の作業を進めていきたいと考えております。なお、本懇談会の委員の皆様は、令和7年7月23日までとなっており、懇談会については今回が最後となりますが、本広域行政について、引き続きご協力をお願いいたします。</p>
山中会長	<p>ほかにご意見等もないようですので、議事としては以上とさせていただきます、本日の会議を終了いたします。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>